

ル・コルビュジエに関連した上野恩賜公園内の建築物

フランス人建築家ル・コルビュジエ（本名：シャルル＝エドゥアール・ジャンヌレ＝グリ、
1887 年－1965 年）が設計した世界遺産の国立西洋美術館（NMWA）は、上野恩賜公園で注目すべき唯一のモダニズム建築の実例ではありません。実際、上野駅方面から公園に向かうと、最初に目につく建物は、1961 年に建設されたコンサートホールである、堂々とした造りの東京文化会館です。この建物は、フランス人ル・コルビュジエに師事し、ル・コルビュジエから NMWA の実際的な設計を委託された 3 人の日本人建築家の 1 人に当たる、前川國男（1905 年－1986 年）の代表作です。東京文化会館は国立西洋美術館の建物の真向いに位置し、これら 2 棟のコンクリート製の象徴的建築物は容易に比較できます。ル・コルビュジエがピロティと呼び、前川がいくつかの建築物に取り入れた、柱を基本とする特徴的な構造は似ていますが、東京文化会館はやや控えめな NMWA よりも大きく、装飾も凝っているように見えます。前川が設計した東京文化会館は広々としたロビーを備え、その紺色の天井には照明が点在して夜空を表し、床は秋の街路を思わせる葉状の図柄で飾られています。

東京文化会館と NMWA の間を通り抜けて、公園内をさらに奥へと向かいます。まっすぐ進んで上野動物園の入口を右に曲がると、東京都美術館（TMAM）に到着です。やはり前川が設計したこの建築物は 1975 年に竣工しました。外観が独特の赤茶色のレンガ造りのため、大きな建物にもかかわらず、目立ちすぎることはありません。内部では、らせん階段や抽象的な図柄の床タイルなどモダニズム独特の特徴が際立ち、地下に大きなギャラリーを配置する方式も異彩を放っています。全般的には、TMAM は東京文化会館や NMWA と比べ威圧的な感覚が少ない建物です。後年の前川が、「人体の寸法に沿った」建物を設計するというモダニズム運動の目標の実現に師より近づいたことを、おそらく示唆しています。